

日本アマチュアボクシング連盟の掲げるアマチュアリズムの問題点に関する考察

A study on amateurism of Japan Amateur Boxing Association

1K09A122-4

下河博史

主査 宝田 雄大 准教授

副査 太田 章 教授

【序章】

【研究の背景】

現在、日本人世界チャンピオンは7人おり、ロンドンオリンピックでは村田選手が金メダル、清水選手が銅メダルを獲得するなど、プロボクシングもアマチュアボクシングも非常に活気あふれる状況である。この要因は、長年のプロアマ規定を超克し、プロ選手とアマチュア選手の公認スパーリングやキッズボクシングの普及によるものである。

しかし日本ボクシング連盟は、村田諒太のプロ転向の際、村田にアマ追放の決議を出したり、規則細則に入れ込んだ選手強化寄付金という名の実質の移籍金を要求してきたりとヒステリックな反応を見せた（本郷2013）。これはプロとアマとのこれまで積み重ねてきた有効的な関係の断絶を意味するのではないだろうか。

【研究の目的】

本研究の目的を、日本プロボクシング協会（JPBA）と日本ボクシング連盟（JABF）の歴史、および両者の関係の歴史の変容を明らかにし、プロアマ分裂の歴史とその理由を明らかにし、さらに、アマチュアリズムの崩壊を論証し、日本ボクシング連盟の掲げるアマチュアリズムの問題点を指摘し、日本のボクシング界へ有用な提言をすることとする。

【研究の方法】

まず、第一段階としてボクシングの原型であると言われているピュジリズムについて調べ、ピュジリズムがどのようなルールの変遷を経てボクシングへと変わっていったかを明らかにする。次に、現在日本のアマチュアボクシングの統括団体である日本ボクシング連盟の設立と変遷の過程、及び、日本プロボクシング協会の設立と変遷の過程を明らかにし、考察を加える。さいごに、世界のスポーツにおけるアマチュアリズムの矛盾と崩壊を明らかにし、日本ボクシング連盟（JABA）が掲げるアマチュアリズムの問題点を指摘

する。

【先行研究の検討】

ボクシングの歴史について体系的に述べたものは、児島（1974）、松井（2007）などがあげられる。また、ピュジリズムと当時のイギリスの関係について梅垣（1996、2010）、ウェイン・ジュリアン（2012）が明らかにしている。国内のボクシングに関する先行研究は、郡司（1970）が明治期以降の日本のボクシングについて歴史を整理しているが、郡司以外には目立った研究はない。よって、戦後のアマチュアボクシングとプロボクシングの関係性の歴史を整理し、日本ボクシング連盟の掲げるアマチュアリズムの問題点を指摘する必要があると考えられる。

【第1章】

まずピュジリズムがどのような競技であったのかを明らかにし、ブローtons・コードの制定の過程、およびその内容と、プライズファイトの関係を整理する。次にブローtons・コードからロンドン・ルールへとルールの改正が行われる背景を整理する。最後に当時のイギリスの社会的背景から、ピュジリズムが、近代ボクシングに至った要因を明らかにする。

【第2章】

第2章では、近代ボクシングの基礎となった、クインズベリー・ルールの制定とその内容を明らかにする。そして、第2節、第3節において、19世紀に近代化を果たしたボクシングが、日本にどのように輸入され定着していったかを明らかにする。

【第3章】

第3章では、まずオリンピックの持つ意味の変容と、アマチュアリズムの限界を論証する。そして最後に、日本におけるアマチュアボクシングの問題点を明らかにし、今後の日本アマチュアボクシング界への提言をする。